

(トップページ:<http://mylibrary.maeda1.jp/>)

(五大石油会社の業績比較:<http://mylibrary.maeda1.jp/SuperMajors.html>)

(ブログ「石油と中東」:https://blog.goo.ne.jp/maedatakayuki_1943)

マイライブラリー:0565

(注)本稿は 2022 年 8 月 5 日から 30 日まで 13 回に分けて「ブログ・石油と中東」に掲載したレポートをまとめたものです。

2022.9.1

前田 高行

エネルギー価格高騰で過去最大級の利益:2022 年 4-6 月期五大国際石油企業決算速報

スーパーメジャーと呼ばれる五大国際石油企業(ExxonMobil、Shell、bp、TotalEnergies 及び Chevron)の4-6月期決算が相次いで発表された。ここでは売上高、利益、売上高利益率、設備投資、キャッシュフロー及び石油・天然ガス生産量について各社の業績を横並びで比較するとともに過去 2 年間の各社四半期決算の推移を検証する。

なお過去の四半期業績及び2010年から2021年までの通年の業績比較は下記レポートを参照されたい。

<http://mylibrary.maeda1.jp/SuperMajors.html>

<http://mylibrary.maeda1.jp/oil.html>

目次	頁
I. 各社の業績概要	
1. ExxonMobil	2
2. Shell	2
3. bp	3
4. TotalEnergies	3
5. Chevron	4
II. 5社の業績比較	
1. 純利益	5
2. 売上高	5
3. 売上高利益率	6
4. キャッシュフロー	6
5. 設備投資	8
6. 石油及び天然ガス生産量	8
III. 過去2年間の四半期業績推移	9

I. 各社の業績概要

末尾表 1-D-4-22a(売上、損益)、1-D-4-22b(キャッシュフロー、設備投資)及び 1-D-4-22c(原油・天然ガス生産量)参照。

(売上トップ、他を圧する生産量誇る ExxonMobil !)

1. ExxonMobil

プレスリリース:

https://corporate.exxonmobil.com/News/Newsroom/News-releases/2022/0729_ExxonMobil-announces-second-quarter-2022-results

(1)売上・利益・利益率

ExxonMobil の 2022 年 4-6 月期は売上高 1,157 億ドル、利益 179 億ドルで売上高利益率は 15.4% であった。前期(1-3 月期)との比較では、売上高は+28%増、利益は 3.3 倍であり、また前年同期(2021 年 4-6 月期)比では売上高は 3.5 倍、利益は 3.8 倍である。

売上高の増加はエネルギー価格の上昇とコロナ禍(COVID-19)終息による需要回復の結果である。因みに今年 4-6 月の Brent 原油平均価格は1バレル 114 ドルに達しており前期(1-3 月)の 102 ドルからさらに改善し、また前年同期(69ドル)の 7 割アップであった。

(2)キャッシュフロー及び設備投資

今期の営業キャッシュフローは 200 億ドル、投資キャッシュフローは▲31 億ドルであり、フリーキャッシュフローは 169 億ドルであった。また財務キャッシュフローは▲87 億ドルであり、この結果、6 月末のキャッシュフロー残高は 189 億ドルとなっている。

ExxonMobilの 4-6 月期設備投資は 46 億ドルであった。

(3)原油・天然ガス生産量

ExxonMobilの 4-6 月期原油・天然ガスの生産量は、日量平均で原油 230 万B/D、天然ガス 86 億立法フィート(cfd)であった。天然ガスを原油に換算した原油・天然ガス合計生産量は 373 万B/Dである。

(下流部門に強い Shell !)

2. Shell

プレスリリース:

<https://www.shell.com/investors/results-and-reporting/quarterly-results/2022/q2-2022.html>

(1)売上・利益・利益率

Shell の 2022 年 4-6 月期は売上高 1,001 億ドル、利益 180 億ドルで売上高利益率は 18%であった。前期(1-3 月期)との比較では、売上高は 19%増、利益は 2.5 倍であり、また前年同期(2021 年 4-6 月期)比では売上高は 3 倍、利益は 5.3 倍である。

売上高、利益ともに前年同期比で大幅増加であるが、その主要因は他社と同様エネルギー価格

の上昇と需要回復によるものである。

(2) キャッシュフロー及び設備投資

今期の営業キャッシュフローは 187 億ドル、投資キャッシュフローは▲62 億ドルであり、フリーキャッシュフローは 124 億ドルであった。また財務キャッシュフローは▲112 億ドルであり、この結果、3 月末のキャッシュフロー残高は前期横ばいの 390 億ドルとなっている。

Shell の 4-6 月期設備投資は 67 億ドルであった。

(3) 原油・天然ガス生産量

Shell の 4-6 月期原油・天然ガスの生産量は、日量平均で原油 133 万B/D、天然ガス 34 億立法フィート(cfd)であった。天然ガスを原油に換算した原油・天然ガス合計生産量は 192 万B/Dである。

(原油・天然ガス生産量が見劣りするbp！)

3. bp

プレスリリース:

<https://www.bp.com/en/global/corporate/news-and-insights/press-releases/second-quarter-2022-results.html>

(1) 売上・利益・利益率

bp の 2022 年 4-6 月期は売上高 695 億ドルであった。損益は 93 億ドルの黒字で売上高利益率は 13%となっている。前期はロシア事業からの撤退で大幅な赤字を余儀なくされたが、今期は他社同様石油価格の上昇と需要回復により業績が回復している。

(2) キャッシュフロー及び設備投資

今期の営業キャッシュフローは 109 億ドル、投資キャッシュフローは▲25 億ドルであり、また財務キャッシュフローは▲92 億ドルであった。この結果、6 月末のキャッシュフロー残高は 331 億ドルとなっている。

bp の 4-6 月期設備投資は 28 億ドルであった。

(3) 原油・天然ガス生産量

bp の 4-6 月期原油・天然ガスの生産量は、日量平均で原油 94 万B/D、天然ガス 20 億立法フィート(cfd)であった。天然ガスを原油に換算した原油・天然ガス合計生産量は 127 万B/Dである。bp の原油・天然ガスの生産量は他社に比べてかなり低いのが特徴である。(詳細は II 章で詳説)

(売上高利益率が低い TotalEnergies！)

4. TotalEnergies

プレスリリース:

<https://totalenergies.com/media/news/press-releases/totalenergies-second-quarter-and-first-h>

(1)売上・利益・利益率

TotalEnergies の 2022 年 4-6 月期は売上高 748 億ドル、利益 57 億ドルで売上高利益率は 7.6%であった。利益率は他の 4 社が二桁だった中で唯一一桁台にとどまっている。前期(1-3 月期)と比較すると、売上高は+9%増、利益は 15%増であり、また前年同期(2021 年 4-6 月期)比では売上高 2.9 倍、利益は 2.6 倍である。

(2)キャッシュフロー及び設備投資

今期の営業キャッシュフローは 163 億ドル、投資キャッシュフローは▲50 億ドルであり、財務キャッシュフローは▲86 億ドルであった。期末残高は前期を 15 億ドル上回る 328 億ドルとなっている。

TotalEnergies の 4-6 月期設備投資は 49 億ドルであった。

(3)原油・天然ガス生産量

TotalEnergies の 4-6 月期原油・天然ガスの生産量は、日量平均で原油 148 万B/D、天然ガス 68 億立法フィート(cfd)であった。天然ガスを原油に換算した原油・天然ガス合計生産量は 274 万B/Dである。

(堅実な業績を続ける Chevron !)

5. Chevron

プレスリリース:

<https://www.chevron.com/newsroom/2022/q3/chevron-announces-2q-2022-results>

(1)売上・利益・利益率

Chevron の 2022 年 4-6 月期は売上高 654 億ドル、利益 116 億ドルで売上高利益率は 18%であった。前期(1-3 月期)比では、売上高は 25%増、利益は 1.9 倍であり、また前年同期(2021 年 4-6 月期)比でも売上高は 4.1 倍、利益は 3.8 倍である。

(2)キャッシュフロー及び設備投資

今期の営業キャッシュフローは 138 億ドル、投資キャッシュフローは▲5 億ドルであり、フリーキャッシュフローは 106 億ドルであった。また財務キャッシュフローは▲81 億ドルであった。なお同社決算資料では期末キャッシュフロー残高は示されていない。

Chevron の 1-3 月期設備投資は 39 億ドルであった。

(3)原油・天然ガス生産量

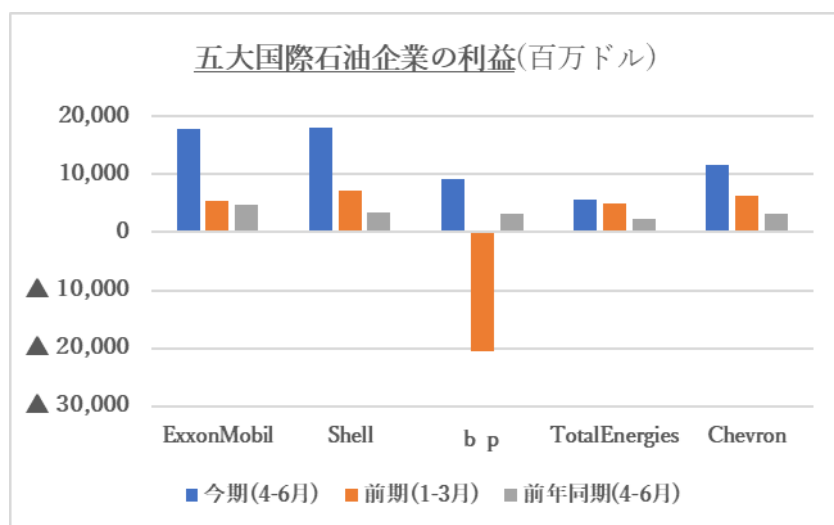
Chevron の 4-6 月期原油・天然ガスの生産量は、日量平均で原油 169 万B/D、天然ガス 73 億立法フィート(cfd)であった。天然ガスを原油に換算した原油・天然ガス合計生産量は 290 万B/Dである。

II. 五社の業績比較

ここでは五社の当期利益、売上高、売上高利益率、キャッシュ・フロー及び設備投資を比較する。

(上位2社の利益は180億ドル！)

1. 純利益¹



国際石油企業5社の4-6月期は原油高値に加え需要回復により、価格と販売数量の両面で利益及び売上高が前期に比べ大幅にアップしている。利益面では前期に大幅な赤字を余儀なくされたbpも他社と肩を並べる利益を確保している。前年同期と比較すると利益の伸びは各社とも極めて大きく3~5倍

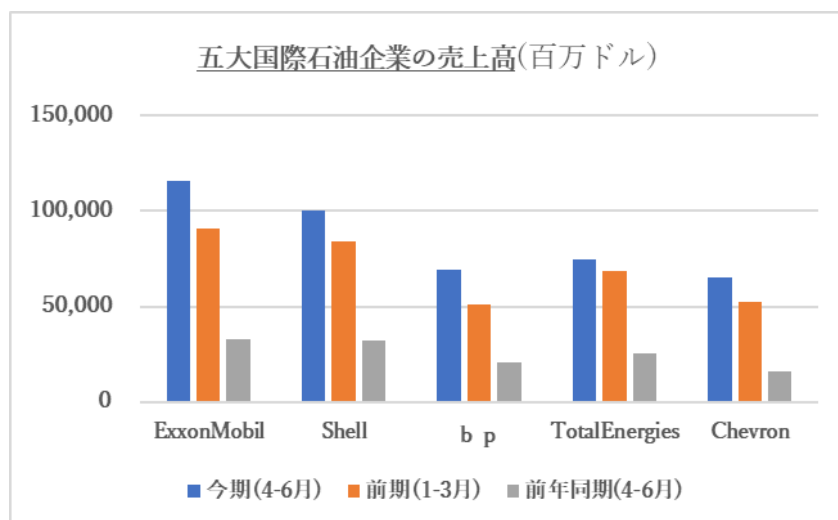
の利益を計上している。

5社の中で利益が最も多かったのは Shell の180億ドルであり、ExxonMobilが僅差の179億ドルで続いている。前期に比べるとShellは2.5倍、ExxonMobilは3.3倍で、また前年同期比ではShell5.3倍、ExxonMobil3.8倍の大幅な増益である。

2社に次ぐのが Chevron の116億ドルであり、前期のほぼ2倍である。第4位はbpで、前期204億ドルの大幅な赤字を計上したが今期は一転して93億ドルの黒字決算となっている。TotalEnergiesは5社の中で利益が最も少なかったが、それでも57億ドル、前年同期比2.6倍の黒字である。

(原油高値推移で売上堅調！)

2. 当期売上高²



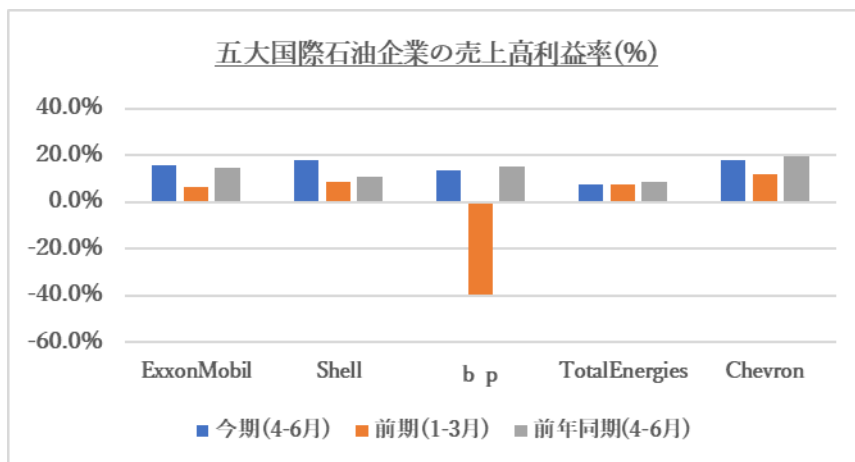
2022年4-6月期の各社売上高は好調であった。5社の中では ExxonMobil が1,157億ドルと最も多く Shell が1,000億ドルで続き、この2社が売上高1千億ドルを超えている。TotalEnergies は748億ドルであり、bpとChevronはそれぞれ695億ドル、654億ドルであった。

ExxonMobil の売上高を100とした場合、Shell は86、TotalEnergies 65、bp 60、Chevron5

7であり、bpの売上高は ExxonMobil の6割弱である。

(TotalEnergiesを除く4社は二桁台の利益率を確保！)

3. 当期売上高利益率



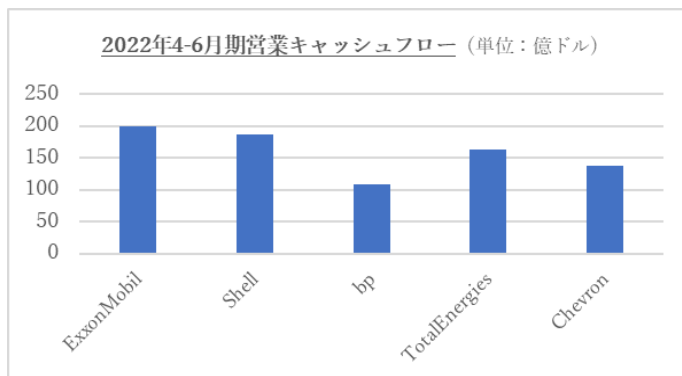
IOC5社の今期売上高利益率はShellが18.0%と最も高く、続いてChevron 17.8%、ExxonMobil 15.4%であり、いずれも15%以上の高い利益率を確保している。bpも13.3%と二桁台の利益率であり、TotalEnergiesのみが一桁台の7.6%にとど

まっている。

4. キャッシュフロー³

(ExxonMobil はbpのほぼ2倍！)

(1) 営業キャッシュフロー(以下 C/F)⁴

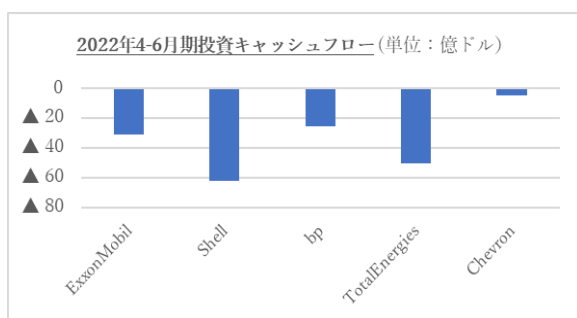


今期の5社の営業 C/F は ExxonMobil が最も多い200億ドルで、これに次ぐのはShellの187億ドル、TotalEnergies の163億ドルである。Chevronは138億ドル、bpは5社の中で最も少ない109億ドルであり、ExxonMobilを100とした場合、Shell93、TotalEnergies82、Chevron69で、bpはExxonMobilの半分近い54である。

い54である。

(投資に意欲的なShellとTotalEnergies、慎重なChevron！)

(2) 投資 C/F⁵

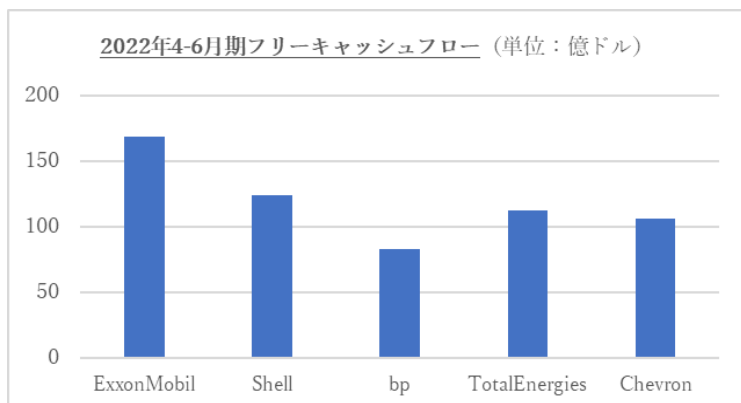


投資 C/F によるキャッシュの流出は Shell が最も多く▲62億ドルであり、これに次ぐのがTotalEnergiesの▲50億ドルであった。ExxonMobil及びbpはそれぞれ▲31億ドル、▲25億ドルで Shell の2分の1弱にとどまっている。Chevronはこれら4社に比べ投資に慎重であり同社の4-6月期の投資 C/F は▲5億ドルと他社に比べ極めて低い

水準であった。

(豊かなフリーC/Fを誇るExxonMobil!)

(3)フリーC/F⁶



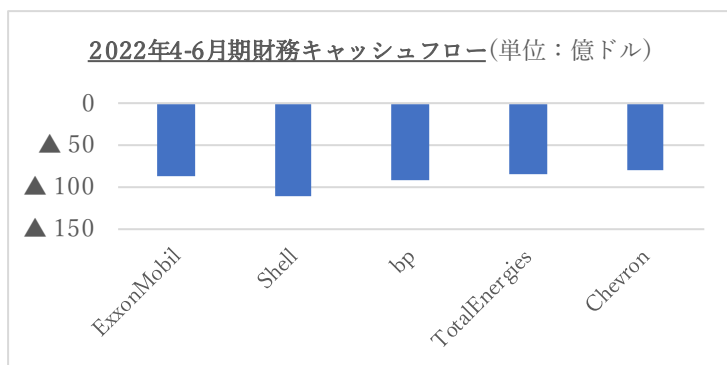
フリーキャッシュフローとは、会社が事業活動で稼いだお金のうち、自由(フリー)に使える現金(キャッシュ)がどれだけあるかを示すものである。なお5社のうち ExxonMobil、Shell 及び Chevron は決算資料に明記されている。bp、TotalEnergies については上記の営業C/Fと投資C/Fの差額をフリーC/Fとして比

較した。

フリーC/Fが最も多いのはExxonMobilの169億ドルであり、Shellが124億ドルでこれに続いている。TotalEnergiesとChevronはそれぞれ113億ドル及び106億ドルであり、最も少ないbp(84億ドル)はExxonMobilの2分の1にとどまっている。

(Shellがトップ、他4社は横並び状態!)

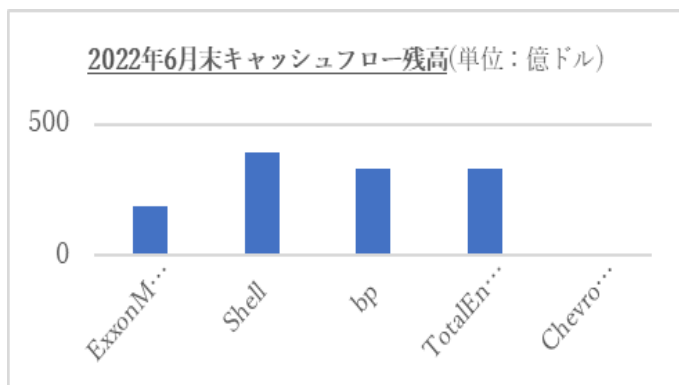
(4)財務C/F⁷



財務C/Fの収支はShellが▲112億ドルと最も大きく、5社の中で唯一100億ドルを超えている。これに次ぐのはbp▲92億ドル、ExxonMobil▲87億ドル、TotalEnergies▲86億ドル、Chevron▲81億ドルと横並び状態である。

(Shellなど3社は300億ドル台、C/F残高が少ないExxonMobil!)

(5)C/F 期末残高⁸



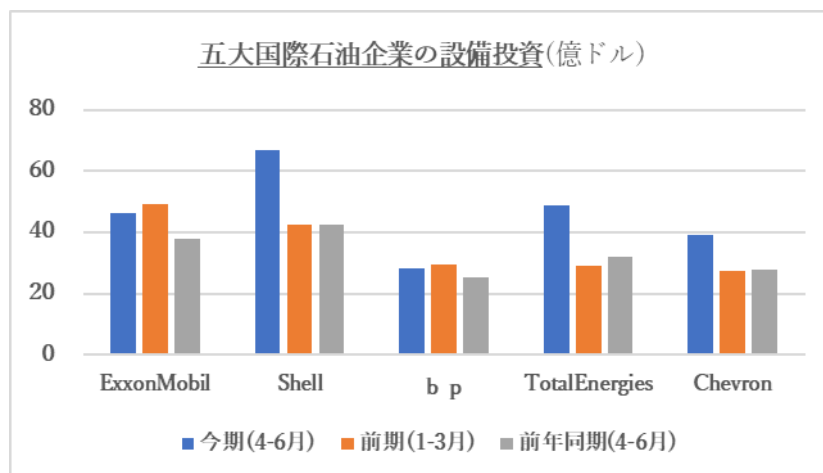
3月末キャッシュフロー残高を比較する。なおChevronは資料に残高が明記されていないためここでは4社を比較する。

残高が最も多いのはShellの390億ドルである。bp及びTotalEnergiesの残高もそれぞれ331億ドル、328億ドルであり、3社はほぼ肩を並べている。しかしExxonMobilの残高は189億ドルにとどま

り、3社のほぼ2分の1でかなり見劣りがする。

(投資に意欲的な Shell、消極的なbp！)

5. 設備投資⁹

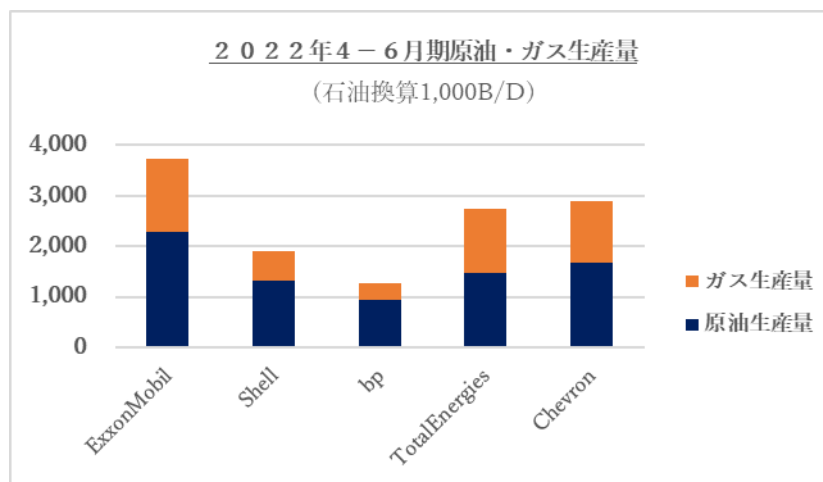


国際石油企業5社の4-6月期設備投資は、Shellが67億ドルで最も多く、これに次ぐのがTotalEnergies(49億ドル)、ExxonMobil(46億ドル)である。Chevronは39億ドルで、最も少ないbpはExxonMobilの6割(28億ドル)にとどまっている。前年同期に比べるといずれも増加して

おり、また前期に比較するとShell、TotalEnergies及びChevronは1.5倍前後増加、ExxonMobil、bpは若干減少している。

(原油・天然ガス共にExxonMobilがトップ！)

6. 石油及び天然ガス生産量



(1)原油生産量¹⁰

2022年4-6月期の原油生産量が最も多かったのはExxonMobilの2,298千B/Dであり、5社の中でただ一社2百万B/Dを超えている。ExxonMobilに次いで生産量が多いのはChevron(1,687千B/D)でExxonMobilの8割である。第3、4位はTotalEnergies(1,483千B/D)、Shell(1,325千B/D)。bpは最も少ない935千B/Dで5社の中で唯一100万B/Dを下回っている。

(2)天然ガス生産量¹¹

天然ガスの生産量が最も多いのはExxonMobilの日産86億立方フィートで石油に換算すると1,434千B/Dであった。2位以下はChevronの73億立方フィート(石油換算1,209千B/D)、TotalEnergies68億立方フィート(石油換算1,255千B/D)と続き、第4位はShellの34億立方フィ

ート(石油換算592千 B/D)であり、最も少ないのはbpの20億立方フィート(石油換算339千 B/D)であった。

(3)石油・天然ガス合計生産量¹²

石油と天然ガスの合計生産量が最も多いのは ExxonMobil であり石油換算で3, 732千 B/D であり、5社の中で唯一3百万 B/D を超えている。2位は Chevron の2, 896千 B/D、続いてTotalEnergies(2, 738千 B/D)及び Shell(1, 917千 B/D)、5社の中で最も少ないBP は1, 274千 B/D であった。ExxonMobil の生産量を100とした場合、他の4社は Chevron 78、TotalEnergies 73、Shell 51、bp は34である。Shell の生産量は ExxonMobil の2分の1、bpは3分の1となる。

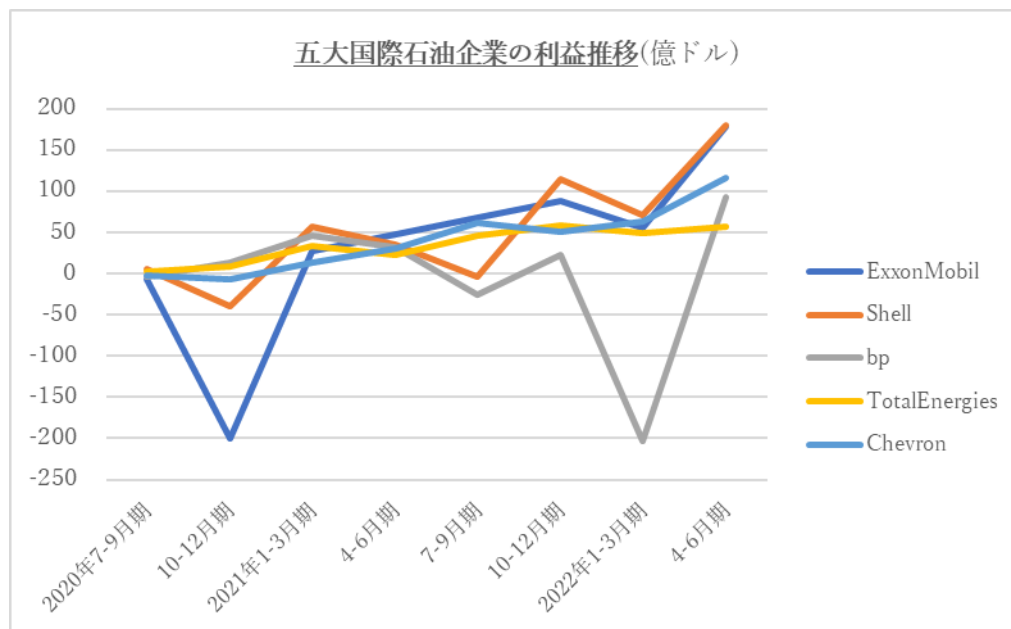
各社の石油と天然ガスの比率を見ると、ExxonMobil は石油62%、天然ガス38%であり、その他の4社は Shell(石油69%:天然ガス31%)、bp(石油73%:天然ガス27%)、TotalEnergies(石油54%:天然ガス46%)、Chevron(石油58%:天然ガス42%)である。5社いずれも石油の比率が天然ガスを上回っているが、石油の比率が最も高いのは bp(73%)で、逆に最も低いのは TotalEnergies(54%)である。

III. 過去2年間の四半期業績推移

ここでは2020年7-9月期以降2022年4-6月期までの8四半期の業績推移を比較する。

(過去8期累積で420億ドルの利益を稼ぎ出した Shell !)

1. 純利益の推移



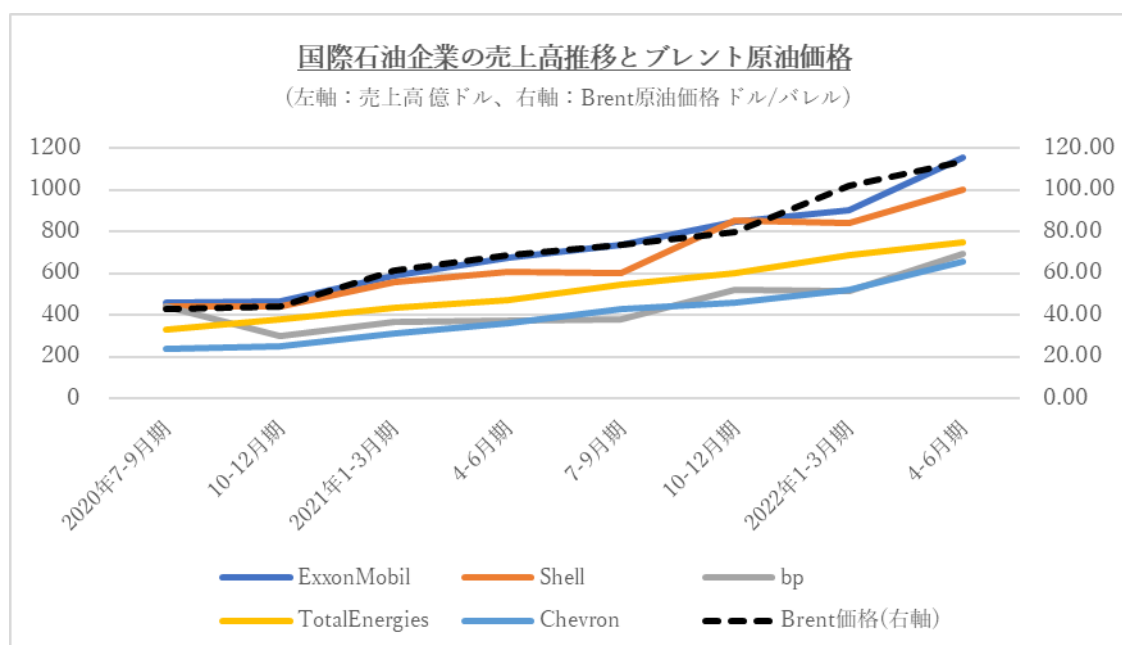
2020年7-9月期はコロナ禍の影響で ExxonMobil、bp及びChevron3社が赤字を計上、Shell とTotalEnergiesも5億ドル以下の利益にとどまり、続く10-12月期はExxonMobilが▲200億ドルの大幅欠損を余儀なくされ、Shell、Chevronも赤字になるなど2020年はいずれも非常に厳しい決算状況であった。

2021年に入って各社はようやく利益を計上できるまでに回復、同年の1-3月期、4-6月期及び10-12月期は5社全てが黒字を計上している。例えば10-12月期はShellが115億ドルの利益を確保、ExxonMobil89億ドル、TotalEnergies及びChevron両社は50億ドル台、bpも23億ドルの利益を計上している。2022年1-3月期はbpが大幅な欠損であったが他の4社は50億ドル以上の利益を計上、続く4-6月期はShell, ExxonMobilが180億ドルの利益を確保したほか、その他3社もすべてプラスであった。

過去2年8期の利益を累計すると Shell は420億ドルであり、Chevron が330億ドル、TotalEnergies 及び ExxonMobil は260億ドル前後の利益を計上している。このような中でbpのみは業績が低迷しており、過去8期のうち3期はマイナス決算で5社の中で唯一8期の累積損益がマイナスにとどまっている。

(bp除き各社とも3倍前後の売り上げ増加！)

2. 売上高の推移



2020年7-9月期から今期(2022年4-6月期)までの売上高の推移を見ると、2020年7-9月期はExxonMobilが462億ドルと最も多く、次いでBP443億ドル、Shell440億ドルが並びんでいる。TotalEnergiesは331億ドルで売上高が最も少なかったのはChevron(240億ドル)であった。

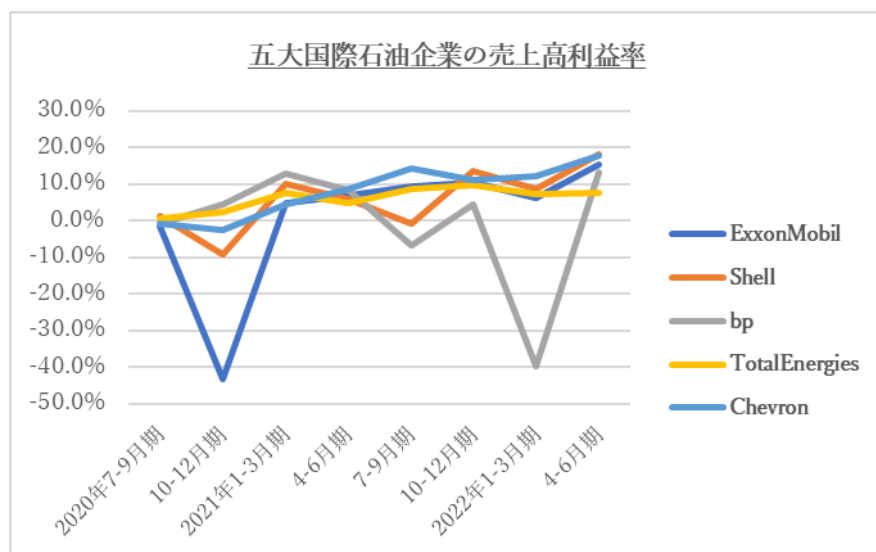
因みに2020年7-9月期のBrent原油平均価格は42.94ドル/バレルであったが、その後の四半期平均価格は44.16ドル→61.12ドル→68.97ドル→73.51ドル→79.76ドル→102.23ドル→113.93ドルと一本調子で上昇している。Brent原油価格は過去2年間で2.7倍に上昇したことになる。

各社の売上高もほぼ原油価格に比例して上昇しており、2022年4-6月期の売上高を2020年7-9月期に比べると、Chevronは2.7倍、ExxonMobil2.5倍、Shell及びTotalEnergies2.3倍

であり、bpのみは1.6倍の増加にとどまっている。

(収益率二桁の Chevron、変動が激しいbp！)

3. 売上高利益率の推移

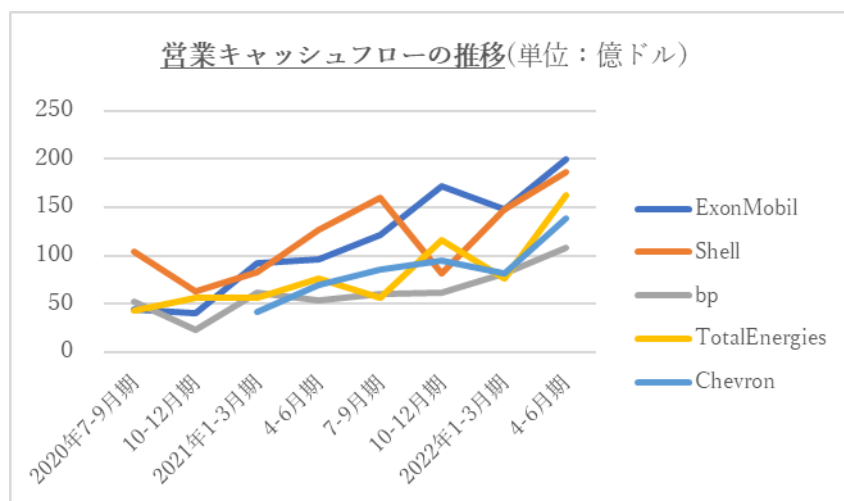


2020年7-9月期から今期(2022年4-6月期)までのIOC5社の売上高利益率の推移を見ると、2020年はコロナ禍の影響により各社とも大幅な下振れが続出した。2021年に入り各社とも業績が回復、上半期は全社の利益率がプラスとなったが、7-9月期以降は各社の収益力に

格差が生じている。Chevronは過去1年間連続して二桁台の利益率を達成しており、ExxonMobil及びTotalEnergiesも4期続けて利益率6%以上で健闘している。Shellの2021年以降の売上高利益率は10.2%(2021.1-3月期)→5.7%(2021.4-6月期)→▲0.7%(2021.7-9月期)→13.4%(2021.10-12月期)→8.5%(2022.1-3月期)→18.0%(2022.4-6月期)と他社に比べブレが大きいものの直近の利益率はかなり高い。これら4社に対して2021年以降のbpの売上高利益率は12.8%(2021.1-3月期)→8.3%(2021.4-6月期)→▲6.7%(2021.7-9月期)→4.5%(2021.10-12月期)→▲39.8%(2022.1-3月期)→13.3%(2022.4-6月期)であり、変動が激しくまた他社に比べて見劣りする。

(売り上げ回復とともに伸びる営業C/F！)

4. 営業キャッシュフローの推移



2020年7-9月期から今年4-6月期までの四半期ごとの営業キャッシュフロー(以下C/F)の推移は概略以下の通りであった(但しChevronは2021年1-3月期以降)。

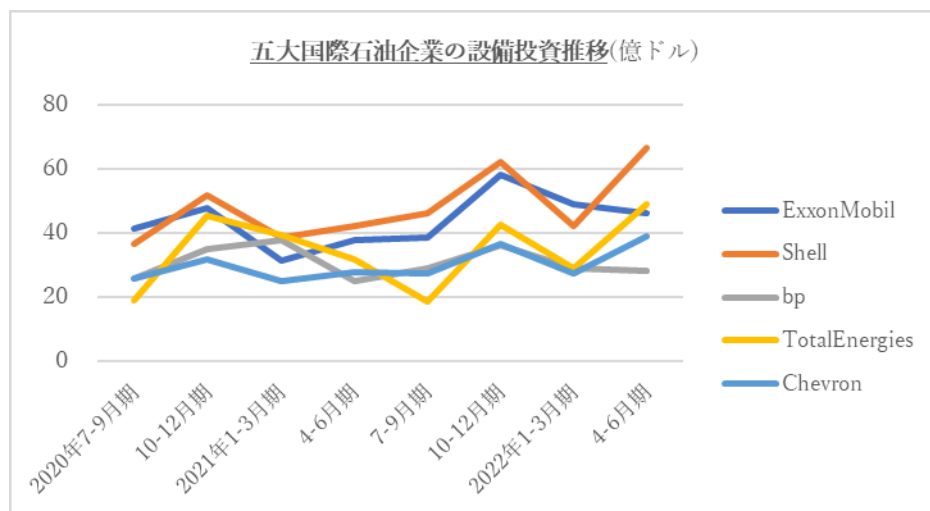
2020年7-9月期の営業C/Fが最も多かったのはShellの104億ドル、次いで

bpが52億ドル、ExxonMobilとTotalEnergiesが共に44億ドルであった。2021年に入ると油価

の高騰及び新型コロナ禍の終息傾向により各社の売上が伸び、営業C/Fも増えている。特にExxonMobil及びShellの伸びが著しく、Shellは同年7-9月期に160億ドル、またExxonMobilも10-12月期に171億ドルに伸びた。この傾向は今期(2022年4-6月期)まで継続、各社とも過去8四半期を通じて最も高いC/Fを記録している。

(投資に慎重な各社！)

(5). 設備投資の推移



2020年7-9月の5社の設備投資額が最も多いのは ExxonMobil の41億ドル、次いで Shell が37億ドルであった。bpとChevronは 26 億ドルで並び、TotalEnergiesは5社の中で最も少ない19億ドルであった。同年10-12月期には各社とも増加したが2021年1-3月期には減少、2021年前半は減額或いは横ばい状態を続けた後、10-12月期には一旦ピークに達した。同期の投資額は Shell が62億ドルで最も多く ExxonMobil は58億ドル、他の3社も含め5社すべての投資額が対前期比で増加した。2022年1-3月期は5社全てで設備投資が減額したが、今期(4-6月期)はShell、TotalEnergies、Chevron3社は過去2年間で設備投資が最も高い水準に達しており、ExxonMobil及びbpは横ばいであった。2020年7-9月期を100とした場合、2022年4-6月期は各社とも100を超えており、とくにTotalEnergiesは2.6倍、Shell及びChevronはそれぞれ1.8倍、1.5倍である。

設備投資は各社が直近の自社の業績及び今後のエネルギー価格の動向、さらには長期的に見た炭化水素資源の需給見通し等により各社の判断が分かれるところである。長引くコロナ禍により世界経済が停滞し、また脱炭素・脱化石燃料の問題で石油企業に厳しい目が注がれているため各社とも設備投資に慎重な様子がうかがわれる。但し、石油・天然ガスの開発には長期間の投資が必要であり、短期的な投資抑制は近い将来のエネルギーの需給バランスに深刻な影響も懸念されるところである。今後の動向を注視したい。

(完)

本稿に関するコメント、ご意見をお聞かせください。

前田 高行 〒183-0027 東京都府中市本町 2-31-13-601
Tel/Fax; 042-360-1284, 携帯; 090-9157-3642
E-mail; maedat@r6.dion.ne.jp

2022年4-6月期国際石油企業の業績(売上、損益)

年		ExxonMobil	Shell	bp	TotalEnergies	Chevron
売上高(百万ドル)	今期(4-6月)	115,681	100,059	69,506	74,774	65,372
	前期(1-3月)	90,500	84,204	51,220	68,606	52,314
	増減(%)	27.8%	18.8%	35.7%	9.0%	25.0%
	前年同期(4-6月)	32,605	32,504	20,776	25,730	15,926
	増減(%)	254.8%	207.8%	234.5%	190.6%	310.5%
総合損益(百万ドル)	今期(4-6月)	17,850	18,040	9,257	5,692	11,622
	前期(1-3月)	5,480	7,116	▲ 20,384	4,944	6,259
	増減(%)	225.7%	153.5%	-145.4%	15.1%	85.7%
	前年同期(4-6月)	4,690	3,428	3,116	2,206	3,082
	増減(%)	280.6%	426.3%	197.1%	158.0%	277.1%
売上高利益率(%)	今期(4-6月)	15.4%	18.0%	13.3%	7.6%	17.8%
	前期(1-3月)	6.1%	8.5%	-39.8%	7.2%	12.0%
	前年同期(4-6月)	14.4%	10.5%	15.0%	8.6%	19.4%

(参考)原油価格(ドル/バレル)

	Brent 原油	WTI 原油
今期(4-6月)	113.93	108.77
前期(1-3月)	102.23	95.22
増減(%)	11.4%	14.2%
前年同期(4-6月)	68.97	66.19
増減(%)	65.2%	64.3%

2022年4-6月期国際石油企業の業績(キャッシュフロー、設備投資)

年		ExxonMobil	Shell	bp	TotalEnergies	Chevron
営業キャッシュフロー	今期(4-6月)	19,963	18,655	10,863	16,284	13,800
	前期(1-3月)	14,788	14,815	8,210	7,617	8,100
	増減	5,175	3,840	2,653	8,667	5,700
投資キャッシュフロー	今期(4-6月)	▲ 3,062	▲ 6,207	▲ 2,509	▲ 4,982	▲ 500
	前期(1-3月)	▲ 3,947	▲ 4,273	▲ 1,883	▲ 2,378	▲ 700
	増減	885	▲ 1,934	▲ 626	▲ 2,604	200
フリーキャッシュフロー	今期(4-6月)	16,899	12,448			10,600
	前期(1-3月)	10,843	10,542			6,100
	増減	6,056	1,906			4,500
財務キャッシュフロー	今期(4-6月)	▲ 8,671	▲ 11,150	▲ 9,246	▲ 8,571	▲ 8,100
	前期(1-3月)	▲ 6,713	▲ 9,019	▲ 2,469	4,986	▲ 1,400
	増減	▲ 1,958	▲ 2,131	▲ 6,777	▲ 13,557	▲ 6,700
キャッシュフロー 期末残高	今期(6月末)	18,861	38,970	33,108	32,848	n.a.
	前期(3月末)	11,074	38,360	34,414	31,276	n.a.
	増減	7,787	610	▲ 1,306	1,572	
設備投資(百万ドル)	今期(4-6月)	4,609	6,677	2,838	4,895	3,923
	前期(1-3月)	4,904	4,237	2,929	2,903	2,757
	増減(%)	-6.0%	57.6%	-3.1%	68.6%	42.3%
	前年同期(4-6月)	3,803	4,232	2,514	3,198	2,786
	増減(%)	21.2%	57.8%	12.9%	53.1%	40.8%

2022年4-6月期国際石油企業の業績(原油・天然ガス生産量)

年		ExxonMobil	Shell	bp	TotalEnergies	Chevron
原油生産量(1,000B/D)	今期(4-6月)	2,298	1,325	935	1,483	1,687
	前期(1-3月)	2,266	1,403	948	1,527	1,736
	増減	1.4%	-5.6%	-1.4%	-2.9%	-2.8%
ガス生産量(100万 cfd)	今期(4-6月)	8,606	3,428	1,964	6,835	7,253
	前期(1-3月)	8,452	3,606	1,964	7,162	7,947
	増減	1.8%	-4.9%	0.0%	-4.6%	-8.7%
同石油換算(1,000B/D)	今期(4-6月)	1,434	592	339	1,255	1,209
	前期(1-3月)	1,409	622	338	1,316	1,324
	増減	1.8%	-4.8%	0.3%	-4.6%	-8.7%
原油・ガス合計生産量 (石油換算 1,000B/D)	今期(4-6月)	3,732	1,917	1,274	2,738	2,896
	前期(1-3月)	3,675	2,025	1,286	2,843	3,060
	増減	1.6%	-5.3%	-0.9%	-3.7%	-5.4%

¹ 「純利益」は各社資料から下記項目を抽出した。

ExxonMobil:Net income attributable to ExxonMobil (U.S. GAAP)

Shell:Incom/loss attributable to shareholders

bp:Profit (loss) for the period; Attributable to BP shareholders

TotalEnergies:Net income (TotalEnergies share)

Chevron:Net income

² 「売上高」は各社資料から下記項目を抽出した。

ExxonMobil:Total revenues and other income

Shell:Revenue

bp:Total revenue and other income

TotalEnergies:Sales

Chevron:Sales and other operating revenues

³ キャッシュ・フロー(cash flow、現金流量)とは、現金の流れを意味し、主に、企業活動や財務活動によって実際に得られた収入から、外部への支出を差し引いて手元に残る資金の流れのことをいう。欧米では古くからキャッシュ・フロー会計にもとづくキャッシュ・フロー計算書(Cash flow statement, C/F)の作成が企業に義務付けられており、日本でも1999年度から上場企業は財務諸表の一つとしてキャッシュ・フロー計算書を作成することが法律上義務付けられている。

キャッシュ・フローは(1)営業キャッシュ・フロー(日常的な、生産・営業活動によって稼得する現金と、それに要する現金コストの収支)、(2)投資キャッシュ・フロー(工場新設やビル建設・トラック購入などの設備投資・有価証券投資に要する現金支払いと資産売却による収入)及び(3)財務キャッシュ・フロー(財務活動による現金の収支)の3種類があり、これらの総合収支が会計期間内の現金収支であり、期首(前期末)の現金(及び現金相当物)の残高に期間内の収支を加えたものが当期末の

現金(及び現金相当物)となる。(Wikipedia より)

⁴ 「営業キャッシュ・フロー」は各社資料から下記項目を抽出した。

ExxonMobil:Cash Flow form Operating Activities (U.S. GAAP) / Net cash provided by operating activities (U.S. GAAP)

Shell:Cash flow from operating activities

bp:Net cash provided by operating activities, Condensed group cash flow statement

TotalEnergies:Cash flow from operating activities, TotalEnergies financial statements

Chevron:Net cash provided by Operating Activities, Summerrized Statement of Cash Flow (Preliminary)

⁵ 「投資キャッシュ・フロー」は各社資料から下記項目を抽出した。

Shell:Cash flow from investing activities

bp:Net cash used in investing activities

TotalEnergies:Cash flow used in investing activities, TotalEnergie financial statement

Chevron:Net cash Used for Investing Activities, Summerrized Statement of Cash Flow (Preliminary)

⁶ 「フリーキャッシュフロー」は ExxonMobil、Shell 及び Chevron³ 社は各社資料から抽出、bp 及び TotalEnergies² 社は営業 C/F と投資 C/F の差額とした。

ExxonMobil:Free cash flow

Shell:Free cash flow

Chevron:Free cash flow, Summerrized Statement of Cash Flow (Preliminary)

⁷ 「財務キャッシュ・フロー」は各社資料から下記項目を抽出した。

Shell:Cash flow from financing activities

bp:Net cash provided by (used in) financing activities

TotalEnergies:Cash flow from (used in) financing activities, Total financial statement

Chevron:Net cash provided by (Used for) Financing Activities, Summerrized Statement of Cash Flow (Preliminary)

⁸ 「キャッシュフロー期末残高」は各社資料から下記項目を抽出した。なお Chevron は資料に明記されていない。

ExxonMobil:Cash and cash equivalent at end of period

Shell:Cash and cash equivalent at end of period

bp:Cash and cash equivalent at the end of the period

TotalEnergies:Cash and cash equivalent at end of period, TotalEnergies financial statement

⁹ 「設備投資」は各社資料から下記項目を抽出した。

ExxonMobil:Capital and Exploration Expenditures

Shell:Capital expenditure, Consolidated Statement of Cash Flow

bp:Capital expenditure

TotalEnergies:12. Net investments

Chevron:Capital & Exploratory Expenditure, Worldwide

¹⁰ 「原油生産量」は各社資料から下記項目を抽出した。

ExxonMobil:Net production of crude oil, natural gas liquid, bitumen and tsynthetic oil

Shell:Liquid production available for sale

bp:Production (net of royalties), Liquids

TotalEnergies: 3.3 Production, Liquids

Chevron:Net liquid production

¹¹ 「天然ガス生産量」は各社資料から下記項目を抽出した。

ExxonMobil:Natural gas production available for sale

Shell:Natural gas production available for sale

bp:Production (net of royalties), Natural gas

TotalEnergies:Hydrocarbon production, Gas

Chevron:Net natural gas production, Worldwide

¹² 「石油・天然ガス合計生産量」は各社資料から下記項目を抽出した。

ExxonMobil: Production, Earnings and Volume Summary

Shell:Total production in barrels of oil equivalent

bp:Production (net of royalties), Total hydrocarbons
TotalEnergies: 3.3 Production
Chevron:Total net oil-equivalent production